

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：健康増進対策費

事業名 親子で楽しむ健康づくり推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 保健医療課 健康増進係 電話番号：058-272-1111 (内線 2548)

E-mail：c11223@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,359 千円 (前年度予算額：1,616 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,616	0	0	0	0	0	0	0	1,616
要求額	1,359	0	0	0	0	0	0	0	1,359
決定額	1,359	0	0	0	0	0	0	0	1,359

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

子供の体力・運動能力は低下傾向にあり、その原因のひとつに、外遊びやスポーツの重要性を軽視し、子供に積極的に体を動かすことをさせなくなったことが文部科学省の中央教育審議会でも答申されている。

また、親の世代も生活習慣により体力的な不安要素が現れる年代となる。

このことから、子供も親も健康を維持するためにも体力の低下を防ぐ必要がある。

南飛騨健康増進センターは県民や一般来訪者が様々な健康法を気軽に楽しみながら学習、体験、実践し、交流できる県民の「健康道場」としての機能がある。これまでは高齢者を対象とした健康寿命を延ばすための心と身体の健康づくりを実践していたが、その対象者を子供とその親の世代まで広げ、それぞれふれあいながら体力向上と身体の健康増進を目指す運動を展開する。

(2) 事業内容

下呂市萩原町四美地区に所在する南飛騨健康増進センターを健康づくり拠点施設として、森林、里山、温泉施設を活用した各種体験講座を親子で楽しみながら、心と体の健康維持を推進する。

「親子で楽しむ健康講座」開催事業

- ・南飛騨健康増進センターの森林や施設を使い、「自然観察」、「キャンプ体験」、「クラフト」、「クッキング」などの、日常的でない健康体験を親子で行うことにより、リフレッシュ効果を得ることを目標とする。
- ・同講座は年間15回開催する。
- ・親子で参加する日帰りのバスツアーを開催し、美濃地域からセンターに県民を誘客し、健康体験講座の受講や温泉施設の利用から、施設利用者の増加を目指す。
- ・バスツアーは年間2回開催する。
- ・2021年に開催される「ねんりんピック」スタッフを養成した後、オリエンテーリングという競技を通じて、南飛騨健康増進センターのフィールドで健康・体力づくりを通年で行われることを目標とする。
- ・講習会は年間1回開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額 (千円)	事業内容の詳細
報償費	270	「親子で楽しむ健康講座」講師への報償費
旅費	100	「親子で楽しむ健康講座」講師への旅費
消耗品費	45	「親子で楽しむ健康講座」に係る消耗品費
印刷製本費	250	「親子で楽しむ健康講座」に係るチラシ印刷費
役務費	24	「親子で楽しむ健康講座」に係るチラシ郵送料
保険料	25	「親子で楽しむ健康講座」に係る保険料
委託料	645	・オリエンテーリングスタッフ養成に係る経費 ・日帰りバスツアー開催に係る費用
合計	1,359	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

南飛騨健康増進センターの知名度・魅力を高め、老若男女多くの県民に利用される施設とするとともに、南飛騨の地域特性を活用した県の健康増進の拠点施設とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移			現在値	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

県の健康増進の拠点施設としての機能を果たしているかどうかの指標は、単に利用者数だけでは判断できないため。

（前年度の取組）

親子で楽しむ健康講座は、感染症対策を行ったうえで 10 回開催し、近隣地域からの参加者を呼び込めた。また、同講座及びキャンプ縄文の利用に関して、下呂市内の他、高山市、中津川市、郡上市の一部の小学校にチラシを 3,000 枚配布して、施設の利用を促した。

（前年度の成果）

小学校 2 校が学校行事としてキャンプ場を利用するなど、今まで利用者が少なかった下呂市内の新規利用が増加している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	心と体の健康維持や病気の予防の推進による県民の健康寿命の延伸に資するなど、県の健康づくりの拠点施設として活用していく必要がある。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	センターの知名度が低いという課題はあるが、健康体験講座に対する県民の満足度は高く、平成30年度バス事業についても多くの方の申込・参加をいただいている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	地元関係者を会員とした「南飛騨健康増進センターあり方検討会」などにおいて、事業の実施方法等に関し意見交換等を行っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 センターの知名度を向上させるための積極的なPRを実施するとともに、センター単発ではなく、民間の知恵や南飛騨地域の特性・資産等を活用した誘客事業を行う必要がある。	
--	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 更なる誘客のため、知名度向上のための積極的なPRや魅力ある健康体験講座の設定、民間の知恵や南飛騨地域の特性・資産を活用した誘客事業などに取り組んでいく。	
---	--